

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第37週 (9/10-9/16) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	37週	36週	35週	34週
小児科	18	18	18	17
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	26	26	27	26
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/10-9/16	9/3-9/9	8/27-9/2	8/20-8/26	9/3-9/9
			37週	36週	35週	34週	36週
小児科	RSウイルス感染症		13	12	6	16	171
	咽頭結膜熱		7	3	9	7	66
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	34	34	30	24	226
	感染性胃腸炎		79	71	94	55	429
	水痘		0	0	1	1	29
	手足口病		26	23	32	13	170
	伝染性紅斑		4	3	2	3	65
	突発性発しん		4	12	12	13	67
	ヘルパンギーナ		21	16	21	22	129
	流行性耳下腺炎		1	1	1	3	14
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		4	2	0	1	4
			0.15	0.08	0.00	0.04	0.02
眼科	急性出血性結膜炎		0	1	0	0	1
	流行性角結膜炎		3	11	4	7	38
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	5
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(25件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	胸水ADA値の上昇	百日咳	男性	10歳未満	臨床診断
結核	女性	20歳代	病原体の検出等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	50歳代	病原体等の検出等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出	百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認、起因菌の判定	百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出
	男性	70歳代		百日咳	女性	70歳代	抗体の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	女性	80歳代	病原体の分離・同定	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子等の検出
				風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第37週は、結核3件(126)、腸管出血性大腸菌感染症1件(18)、レジオネラ症1件(9)、アメーバ赤痢1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(14)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(6)、百日咳12件(155)、風しん4件(49)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

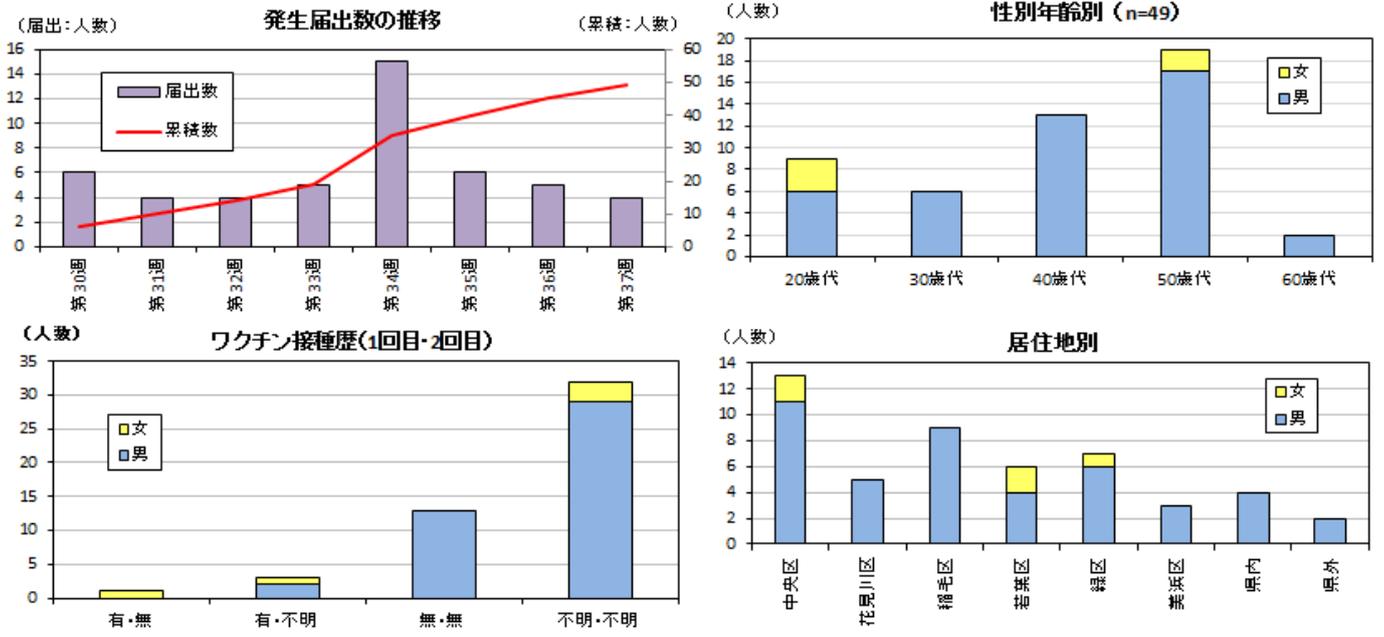
定点当たり報告数 第37週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週から横ばいで1.89のままとなった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

＜風しん＞

全国レベルの第36週の累積報告数は496件で、昨年の同時期と比べるとおよそ8倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市では第30週から報告が出始め、第37週は4件の発生届があり、2018年の累計は49件となっています。性別では男性が89.8% (44名)、女性が10.2% (5名)で、いずれも成人で年齢階級別では50歳代(38.8%:19名)、40歳代(26.5%:13名)、20歳代(18.4%:9名)の順で多く、40歳代～50歳代が中心となっています。居住地別では、中央区(26.5%:13名)、稲毛区(18.4%:9名)、緑区(14.3%:7名)の順で多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第36週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、石川県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第37週は前週から横ばいで1.89のままですが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は緑区(4.75/定点)で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第37週の累積報告数は68件で、性別では男性が54.4% (37名)、女性が45.6% (31名)で、年齢階級別では4歳(32.4%:22名)、3歳(16.2%:11名)、5歳(13.2%:9名)の順で多くなっています。

